

< 今日の説教のポイント ローマの信徒への手紙 8章 26-28節 >

1 ローマ 8:28 について 内村鑑三『ロマ書の研究』から

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たち」とは、キリスト信者。「クリスチャンとは神を愛する者。自分から発心して神を愛するに至ったのではなく、まず、神がその旨に依りて我らを招き、キリストに在りて我らを義とし、我らを神の子とする恩恵を加えたもうた。神の我らに対する愛が先、我らの神に対する愛は後。何人もみずからつとめて神を信じ、神を愛することはできない。

- ① 「すべてのことが共に働きて益をなす」。すべてのこととは万事万物である。世のいわゆる良きことのみではない。悪しきことももちろん含まれる。そのことを、「われらは知れり」と、パウロは自身の確信として述べたのである。その確信はパウロのみならず多くのキリスト信者の生涯の実験として知ったことである。
- ② 信者でない人の考えは合理的。「友は我らを助ける者、敵は我らを妨げる者、成功は我を助け、失敗は我を妨げる。幸運は我を助け、災禍は我を妨げる」と考える。
- ③ しかし、クリスチャンにとっては、「友も敵も、成功も失敗も、幸運も災禍も、ことごとく己を助けるものである」。陰険なる敵の攻撃、失敗、困窮、苦難、愛する者を失う悲痛、これらに遭遇しても、後に静かに思えば、そのことも我を助けしもの、神より我を助けるべく遣わされしものであると感じ悟らざるを得ない。

2 病者の祈り

大事を成そうとして 力を与えてほしいと神に求めたのに
慎み深く従順であるようにと 弱さを授かった。

より偉大なことができるようにと 健康を求めたのに

よりよきことができるようにと 病弱を与えられた。

世の人々の賞賛を得ようとして 権力を求めたのに

神の前にひざまずくようにと 弱さを授かった。

人生を享楽しようとして あらゆるものを求めたのに

あらゆるものを喜べるようにと いのちを授かった。

求めたものは一つとして与えられなかったが

願いはすべて聞き届けられた。

神の意にそわぬ者であるにもかかわらず

心の中の言い表せない祈りはすべてかなえられた。

私はあらゆる人々の中で 最も豊かに祝福されたのだ。